

工業部会通信

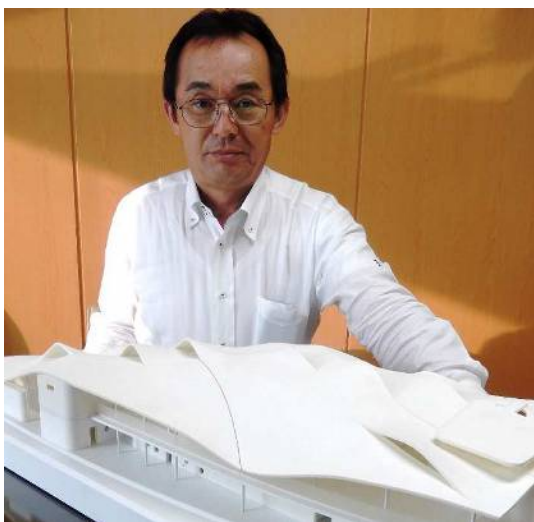
相模原商工会議所 工業部会発行
編集 かながわ経済新聞社
代表：千葉龍太
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
TEL: 042 (851) 2021
プリントしてご自由にお読み下さい。



市内企業連携で快挙 五輪会場に湘南港ヨットハウス



会場となる江ノ島・湘南港ヨットハウス



モデリングを手にする谷津社長

100分の1という美しい「モデリング」は、難工事を克服する大きな武器となった。同施設の完成によって、谷津建設はモノづくりに技術と建築技術を融合させた、いわば「3D建築」とも呼べる新しいスタイルを確立した。製造業にとっても、得意技術が建築分野にも活かせるという可能性を示した。今回、2020年のセーリング競技会場として江ノ島が決まり、同施設が使われることについて、両社の社長はよこびを語った。

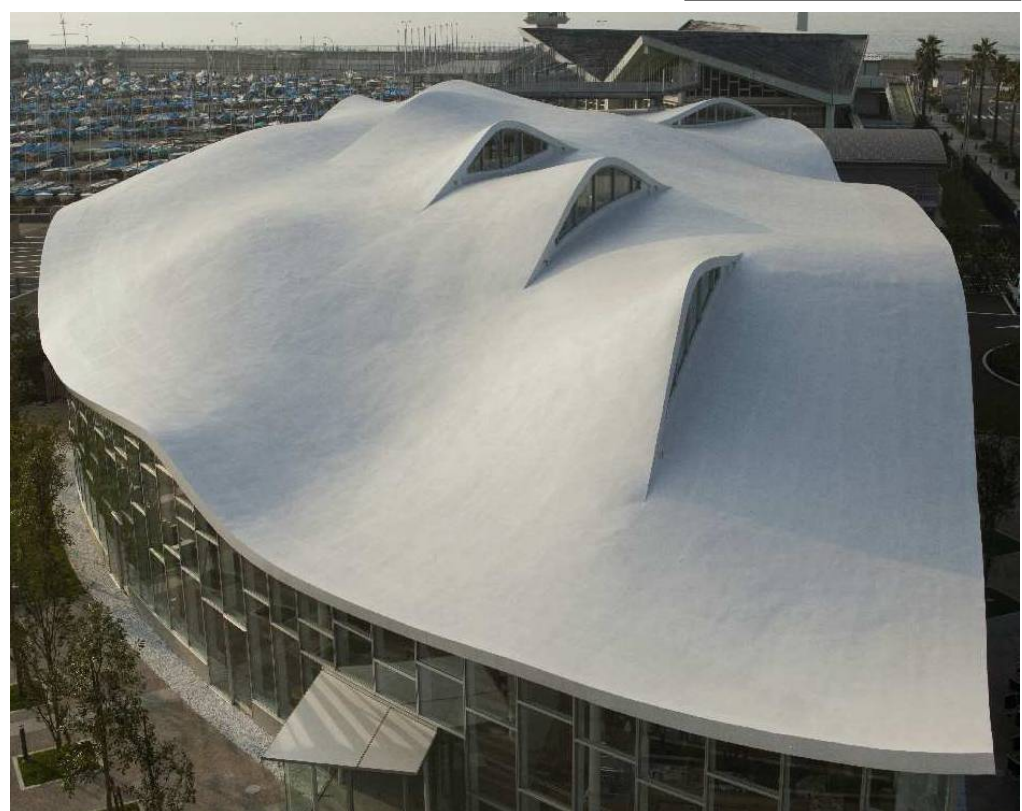
谷津社長は「市内企業の技術力が使われた施設が五輪競技の舞台になり、大変よこびしい」と話した。一方、松岡CEOも「工業と建設業が力を合わせて完成させた『3D建築』が、世界の人たちに目に触れることは大変名誉。記憶に残るに違いない」と述べていた。

「3D建築」に注目集まる 工業と建設が協力、施設完成

国際オリンピック委員会（IOC）が8日、スイス・ローザンヌで開いた理事会で、未承認だった10競技のうち、バドミントンなど8競技の会場トハウスは昨年6月に改めて、2000平方メートルを承認。セーリング競技場として江ノ島と東五輪でも会場として使われていた。同競技が行われる江ノ島で使われる湘南港ヨットハウスは地上2階建て。2000平方メートルを承認。1964年の東京五輪でも会場として使われていた。白を基調にした新ヨットハウスは地上2階建て。2000平方メートルを承認。1964年の東京五輪でも会場として使われていた。

湘南デザインと谷津建設

2020年東京五輪で、セーリング競技として江ノ島での開催が決定、工業部会の湘南デザイン（松岡康彦CEO）と建設部会の谷津建設（谷津弘社長）が連携して完成させた湘南港ヨットハウス（湘南港新港湾管理事務所）が会場として使われることになった。昨年6月にオープンした同施設は、工業と建設分野の異業種企業が互いの強みを活かして難工事を克服、完成にこぎつけた。



湘南の波とヨットの帆をイメージした屋根



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会